土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　　査　　名　一級河川太田川坪野川通常砂防事業に伴う設計業務委託

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　砂防　砂防

ボーリング名	BorNo.2	調査位置	山県郡安芸太田町坪野地内			北緯	34° 33' 24.0400"
発注機関	広島県西部建設事務所　安芸太田支所			調査期間	令和5年 6月12日～ 令和5年 6月15日	東経	132° 20' 21.7400"
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	121.99m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	0°北 90°東 180°南 270°西	地盤勾配	0° 水平 鉛直 90°	使用機種	試錐機	東邦地下工機　D1-B型
総削孔長	9.00m								エンジン	ヤンマー　NFD-13EK	ポンプ	東邦地下工機　BG-3B型

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位／測定月日	標準貫入試験 深度—N値図	N値	深度 (m)	100mm毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
1									最上部層（旧耕土及び崩積土） ・最上部以下GL−0.10mまで里道Co舗装 ・以深GL−0.30mまで砕石敷設 ・GL−0.90mまでφ50mm程度以下の礫が混入する黒褐の旧耕土 ・礫はφ40mm程度以下の中−粗礫が混入 ・砂は細−中粒砂、細粒分に乏しい		0 10 20 30 40 50 60		1.15	1 / 150	1 / 150		2 / 300							
2				礫混り砂		暗褐				6/13 2.40		2	1.45											
	119.19	2.80										4	2.15	2	1	1	4 / 300							6/12
3													2.45											
									段丘堆積物 ・確認石長L=20cm強の転石が点在する更新世後期−完新世河成堆積物 ・玉石はφ100−200mm程度が混入 ・礫はφ75mm程度以下の円離度中位−高い中−粗礫、非常に密に分布 ・基岩同質礫をはじめ流紋岩質礫や泥質岩礫等から成り礫種に富む ・基質は中−粗粒砂、細粒分に乏しい ・L=20cm強の転石確認深度は以下のとおり ・GL−4.65−4.85m間（20cm）、5.30−5.55m間（20cm）、6.15−6.50m間（35cm）、8.55−8.75m間（20cm）			43	3.15	11	14	18	43 / 300							
4													3.45											
												50以上	4.05	50			50 / 50	50						
5													4.10	50										
												50以上	5.00	50			50 / 50	50						6/13
6													5.05	50										
												50以上	6.00	貫入不能			50 / 0	0						
7																								6/14
												50以上	7.15	31	19		50 / 200	200						
8													7.35											
												50以上	8.15	50			50 / 100	100						
9													8.25											6/15
	112.99	9.00		玉石混り砂礫		灰褐	非常に密な					50以上	9.00	50			50 / 70	70						
10													9.07											
11																								
12																								
13																								
14																								